



なんたる星

加賀田 優子

ナイス書

伊舎堂 仁

スコラブ

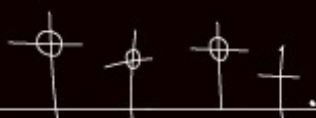
米田 一央

はだし

恋をしている

2015.

6



【目次】

連作

「移動中毒」・・・・・・・・直泰

「「そのみにて輝く」の感想、その他の短歌」・・・・・・・・伊舎堂 仁

「渋谷区」・・・・・・・・はだし

「タンバリン鳴らしてよ」・・・・・・・・ナイス害

「こんな携帯電話は嫌だ」・・・・・・・・恋をしている

「バイキングでシソを食うなよ」・・・・・・・・米田一央

「すぐくる」・・・・・・・・加賀田優子

「リサイクルフォルダ」・・・・・・・・スコラブ

無い

編集後記

移動中毒 直泰

お子さんの自爆で得た経験値です お母様へとお返しします

眠いのか滅びたいのか分からずに目をつむるのがおそろしすぎる

気味が悪い。この牛丼は安すぎる。皆には肉が見えてないのか。

通り魔がさあ通るぞと切りつける とにかく足が疲れるらしい

権限の無い人々を振り落とす編集・保存専用車両

日暮りに用事ある奴いないだろ 人なめんのも大概にしろ

ひと混みと音がそれぞれ一個だけ置かれたゲームセンターへ行く

人生のなんの縮図かはともかく四つ揃えば消えるわけです

子ども達「まじでシバニヤン殺そうぜ」そう言いながら何故ほくを見る

今やっと宇宙の果てに捨てられた鏡のなかで大学やめた

「そのみにて光輝く」の感想、その他の短歌

伊舎堂 仁

自転車であつて(ボイラー音)(肉の煙)(火)自転車で殴る夏

おさいふはとてもだじなものだけどふとんにあるとすこくきたない

ニコロのシールのEと目が合つてキスしたあともまだそこにいる

ありがとうございましたと平等院鳳凰堂からリプライがくる

2学期に引越してつた直泰が転校生でくる3学期

6年後 その担任はニコロで君を無視するからZARARAにして

やどかりをのぞくときとじてる片目からのまつげもやどかりみたい

DO NOT DISTURBクラブ フォークロア チャプター3 “トモダチニナル”

ありがとうございましたを言ったことになる機械を置き ありがとう

渋谷区 はだし

見あげるとヘリコプターがありそんな空にむかってそびえる電柱

ちよつと横断歩道がとおい二車線をわたって夏のほうへふたりは

あちしウルトラマンになるって言ってあっちの方へ走っていった

金網のフェンスに傘がひらいてる飛んできて引つかかったみたいに

ひさびさに会う人へ会うときにくる手の振りたさをこらえ、わたった

あのでかい雲をおねがいます、だともまかせろ塾ゆく子どもたち

新緑のひかりのなかであなたから卓球しよー、ともちかけられる

曲がり角がつくる影にいる猫が舐めてるなにか入りたいれもの

でかすぎるビル、風が吹く駐車場、渋谷区、ウルトラマンになりたい子ども

小児科の壁のてんかいキリンの絵やばいよマジあれは見にくべき

タンバリン鳴らしてよ ナイス害

夕焼けが面白かったあの日以来全力で君だけの残党

干し柿と嘘つきが嫌い分かるもつと知りたいもつと教えて

ピザポテトの袋を開けるととき君の心も開けば良いのに

風船とセックスをして風船と選挙に行つてアイロニカルかよ

幽霊の気分で橋の欄干に立てば今夜もキャラメル風

タンバリン腕に通して寝る人が見ている夢にお金を払う

両足を脇に抱えてゆつくりと回すジャイアントスイヨウビ

スクラッチ削るの下手くそ細胞が絶滅する日をちゃんと見ててね

こんな携帯電話は嫌だ

恋をしている

どう見ても花なんだけどそのことを言えずに皆がちぎって送る
それは千のあくびの猫が写された臨界点を越えた写メール

口開けた電車の絵文字が送られてサンダルで出る日の照る中を

エソジカの二匹のように落ち着いてペランダの鉢植えに挿すだぜ

どこまでも伸びるアンテナ炊き出しを待つ人の手にふれてきたんだ

充電のマークがふいに星になる帰りがたかった飲み会のあと

パカパカのけーたいをまだ使ってる。夜中に好きな音楽を聴く

圏外で送られなかったスタンプの愛の多さに変わる信号

もしもしはやがてなくなり熊の指紋ばかりが僕の言葉になった

こんな携帯電話は嫌だと君が言う 拾って僕がかける命日

カメラとか構えていない灯台にひとりでもいいのだろうか

タバコには害があるかもしれないと気づいてわなわな置くスーパーマン

逃げたくてここにいるのか逃げるのが嫌でいるのかわさびを崩す

平らには見えないけれど花瓶には平らであつたらしい玄関

ちゃんと生きられないちゃんと物置に乾いた服をおさめられない

そのまま死ねばいいんじゃないかと思ったりすると煙はぼうちりゆがむ

マンホールだらけで海はこれ以上あなたを許容できないですね

地肌からパワーを吸収できなくて浮いてるほうれん草の浴槽

コンテナに手が届かないコンテナの下にまんまと滑りこめない

死にたいと言われましても君たちは絵文字を書くのが上手なんだから

遠くから見るとサイやカモシカになつたらいいのになつて人だな

すぐくる 加賀田優子

こんお前だったのかから駆けよってそのあとめちゃくちゃセックスをした
そのくらいにしときなよって止めてくれたひとのそのくらい、がわかるね
悪い子のほうが叱られないことがあるからそれはしかたなかった

ひらいてもひらいても貢亡びるまえの図書館はすぐくうれしい

パパ先輩って遠くから呼ぶとほかのひとは不思議そうにするけれど
パパ先輩はパパっていうあだ名の先輩

先生の寺山修司全集を盗ったひと、いますぐに返して

おかあさんに泣きながら「おかあさんわたし、わたしを忘れたい」と
言ったときのわたしはどちらかというとおかあさんだった

日本地図かける、かけない、かけられるならかけるにこしたことはないです

痴漢かな痴漢じゃないよ友達の手もちだったよ触ってる時

選挙にもまじめに行つたのになあ、ユヨヨユヨ、ユヨヨユヨ、ユヨヨユヨ、ユヨヨユヨ、ユヨヨユヨ、ユヨヨユヨ、夏祭りもすぐく
るねえ、ユヨヨユヨ、ユヨヨユヨ、ユヨヨユヨ、ユヨヨユヨ、くすぐったーい

リサイクルフォルダ

スコラブ

うるこぐもらたたらたとまといつけ魔法じゃなくてこれは寝言だ

工場と道をはさんでラブホテルできれば空はどんよりしている

さよならもまたねも違う気がしてて黄昏時にすこしまかせる

いまはまだ六等ほどに輝いて見過ごされてる変光のミミフ

下書きを保存しているフォルダにはよわむしだったぼくが住んでる

下書きを保存している

花々の溶け落ちた鉄、鉄の星、星形の基地、基地の骸骨、

骸骨が舵を取る船、船は待つ、待つだけのヒト、ヒトの抜け殻、

からがらと水車は回り、回る瓶、瓶詰めの指、指に咲く花

見たことのあるものだけがある世界おかげで今日も迷わず会えた

無いよね

それは無い、
のでは？

無いな～、
今のは

ママーあのん
無いよー
全然、無い！

無い

ないないない
ないないない
ないないない
こめんない

無いで決定！

でもあなた
無いでしょ？

あいつ無いっしょW
ちようウケる～

直泰

これが無い
ってどんな
感じ？

オマエナイゾ

無きかな

耳鼻科で鼻から管を突っ込まれながら、じっとしていなさいと怒られる。じっとしているつもりなのに体は動いているらしい。子どもかねきみは、と呆れたように管が抜かれる。あれは結構傷つく。喉が少し腫れているねと言われて四千円取られた。ふざけんな。俺がどんな思いでその金稼いだと思ってるんだ、バイト先の女子高生が怖くてバックヤードですれ違ふときいつも在庫の陰に隠れてやり過ごしてるんだぞ、その四時間分の時給を管に鼻水つけただけで没収されてたまるか。

僕は自分で自分がむかついてくるくらいに幼くて今年二十二にもなるのに精神年齢が中学生以下だなど最近よく痛感する。この世界に自分以外の誰かが生きていふということを実験に想った経験がない。お菓子の箱の中身を鉛筆だと思おうと思えますと答えている段階。恋をすると人は詩人になる、ならまだいいが、誰かを想うことで初めて詩を綴る資格を得る、だとすれば僕にはその資格がおそらくない。

高校時代にインターネットを通して知り合った同年代の友人Aがいる。仲が良いというほど良いわけでもなく、アニメの女キャラクターに対して「淫乱に違いない」と言いがかりをつけたり、こいつの子宮の位置はこのへんかなとか身体のどこに痣があったらエロいかなとかどうしようもない妄想を露悪的に披露し合ったりしていた。Aは女の子の残酷な殺し方を次から次へとネットに書き込んでいて、それが全部やり過ぎで頭おかしくてぶっ飛んだギャグみたいで僕はげらげら笑ってたし、自分では絶対に思いつかない仕掛けや情景を考えだす彼の脳みそを妬みもした。エロに限らず単純に想像力が豊かで、真っ当に面白いこともたくさん書いていたけれど、やはり女のいたぶり方を書いていふときの彼がいちばん独創的で冴え渡っていると思った。

数年が経って、僕は高校を卒業して大学に入って中退して、二つ年上の彼は就職していた。ネット上での様子もだいたい変わっていた。それに至る経過も発信されていて、特に就職活動をしていた

時期はこちらが心配になるほど精神的に危なそうだったと記憶している。根が真面目な彼はいったん打ちのめされたのち現実に合わせて人格を成長させてしまったようで、このあたりで発言の傾向ががらっと変化し、以前のように獵期的な妄想を発信することがほとんどなくなっていた。僕はまだモラトリアムの続きで半分ほど空想の世界でふわふわしているような感覚があるクズ人間だけだ、Aはしっかり地に足を着けて大人になってしまったのだ。

最近になって彼と話した。遠方に住むインターネット上の友人なので、実際には顔を合わせずチャットでだが。僕は来る日も来る日も死体のふりをしていて近況が無いので適当に最近のアニメの話などを（もうあまり熱心には見ていないが）した。Aもネットで発信しなくなっただけで性癖自体は変わっていないらしく、酒を飲みながら昔のように下劣な妄想をしばし交換しあった。そんな中、ふと話題が現実世界のお話に戻った。定職に就いていて恋人もいるA。彼が「人生初の恋人ができた」と報告していたとき、僕はいよいよ大人になってしまったなと寂しく思ったものだ。「彼女との仲は最近どうですか」と軽い気持ちで訊いた。

画面上で鉛筆のアイコンがしばらくカリカリ動いたあと、「妊娠させたかもしれない」という文字が表示された。チャットなのに息を呑んだ。そうですか、ふむふむ、なるほど、そういうことか、そうですか、そういうことか、と色々なことを一挙に理解してしまった。そうか、そりゃあ彼女を妊娠させる可能性を頭の片隅に置いて日々を送っているような人間が、アニメキャラの子宮の位置を推測してペイントツールで丸を書き込んだり女の子のおもしろい殺し方を考えたりしている暇などあるはずがないのだ。

彼とまるで同じ人間であるかのような態度で会話していた自分が恥ずかしくなった。僕の人生においては何も悩みも思索も自分もしくは張りぼての他人を通じた自分のことだけで、僕はどこまで行っ

でも自己完結の世界しか知らない。けれど今の彼の世界にはしっかりと体温のある他者がいる。以前までのAとは違う人間だ。彼という存在に他人が侵入したことで別の生き物として生まれ変わってしまったみたいなの不気味さ、完全に子どものままの自分が置いていかれたような寂しさを感じた。その後、彼が恋人に関して悩みをこぼすのを僕は真摯なふりして聞いていた。俺は自分自身の頼りなさを痛感したとか、彼女にちゃんとした言葉をかけてやれなかったとか、語られる内容の一つ一つが僕にとっては絵空事のようなだった。何というか感情の重さが違いすぎる。当事者でないこちらにまで何かを感じさせるほど。あれは詩だ。

その時からずっと、周りがみな自分よりずっと高い次元でものを考えているという被害妄想から抜け出すことが出来ない。自分の心の中へ本当に他者を招き入れたことのない人間の言葉には何一つ実際のものが宿らないのではないか、何もかも子どものお遊びだったのか、気づいてしまったぞ馬鹿みたいだ、と呆然とするばかりだった。誰かを本気で想ったとき溢れるのかもしれない表現を使って素敵な言葉を綴ってみたかった。でも僕は当面その他者とやらのアテもないから、代わりに高校の時みたいに本気で脳みその中に架空の人間を作り出して恋してみれば何とかなるかも、なんてふざけたことを考えたりもした。

でも駄目。駄目です。やっぱり駄目なんですよね。いつでも手放せてしまえるし一生背負う覚悟なんか間違ってもする必要のない、自分が見ていないときにはぴったりと静止している実際には子宮を持たない女の子を、どれだけ真剣に大切に想って見たところで立派な感情など湧いてこない。僕は、そういう幻に必死にすがる自分を客観視した際の切なさを、狂おしい恋愛の切なさ勘違いしておくことくらいしかできないです。

それ以前に自分にとって言葉というものは耳鼻科とバイト先と自宅を三角に行き来する生活の慰

みであるので、これはそもそも詩を完全に冒流しているので、最初から誠実に向き合えるはずなどないのである。今は大きめの石になって自室の隅に転がっている。こうすると自分以外の人間が一つの大きな建造物に見える。それも、積み重ねてきた人生の上にあるようなふりをした単なる妄想でしかない。

【編集後記】

「今度編集後記書くんだよね。見に来る？」

「そんなこと言って家に連れ込もうとしてる？」

「いやそうじゃないんだよ。これこれこういう訳で……ね？僕はただ編集後記を書くから君に見てもらいたい」

「ペンギン描いてくれますか？」

「絵を？」

「ですよ」

「ペンギンを描いちゃうのは良くないんじゃないかな、あくまで僕が書くのは編集後記だから。ペンギンを描いちゃうのはまずいよ」

僕はいま自室にこもって編集後記を書いている。

ペンギンを描いてみた。

ペンギンが描けた。

額縁に入れて本棚の上に飾った。

綺麗だな。

みなさんこれが編集後記です。

見に、来ませんか？

2015 6/7 恋をしている

It'll be done once freely, and if it's useless, shall I take off my clothes?

執筆者

はだし(@sunsetsan0)

ナイス書 (@NiceGuuuy)

恋をしている (@yayoikenumai)

スコラブ(@scope_scape)

米田一央(@sawayakanai)

加賀田優子 (@Occak)

伊舎堂 仁 (@hito_genom)

直泰(@antvoku)

なんたる星6月号

発行日：2015年6月7日

編集発行人：恋をしている

Guest：直泰

表紙：スコラブ

Twitter：@nantaruhoshi

Mail：nantaruhoshi@excite.co.jp